起居様態の変容からみた家族の居場所に関する研究

食卓まわりの着座位置と占有感

若井 正一（日本大学工学部）

TRANSFIGURATION OF FAMILY SITTING PLACE IN DINING ROOMS.

Shoichi WAKAI (Nihon University, College of Engineering)

1. 目的 我が国の住まいの起居様態は、ユカ座からイス座へと急速な生活様式の変容にとともに、家族の居場所に対する考え方もますます多様化し、個性化の傾向が著しい。

本編は、特に食卓まわりの家族の着座位置や周辺状況などに着目して、最近の起居様態の実態について検討したものである。

2. 方法 食卓周囲の家族の着座位置などの実態調査は、建築学科に所属する大学生の帰省先自宅を対象に平面図等を記述する方法で回答するものとした。今回の調査時期は、1995年10月であった。なお、10年前の1985年にも同様の調査を行っており、その結果と比較検討することとした。

3. 結果・考察 結果は、表1及び図2～6に示した。本調査の有効回答件数は、150件。

(1) 人口規模別にみた食事時の起居様式は、人口が多い地域ほどイス座の割合が高くなる傾向が見られた。(図2) (2) 地方別にみた食事時の起居様式は、東北、関東、関西の順にイス座の割合が高くなった。ただし、この結果は、一概に北の地方にユカ座が多いことを示すものではなく、少数例だが北海道は、いずれもイス座だった。(図3) (3) 食卓周囲の家族の着座位置が決まっていると回答した家庭は、全体の約70%であった。(図4) (4) 自分(回答者)の座席に他の家族が座ることに対して気になる度合いを続柄別に尋ねた結果、家族の中で父、祖父の順に気になる度合いが高くなる傾向がみられた。(図6)

図1 昭和20年代の食事風景

文献：日本生活図 4、すまゐ、弘文社、1988 より作成

凡例：□ イス座 ■ ユカ座 ▨ イス座とユカ座併用

注：人口規模区分は、A地域が30万人以上、B地域が30万人未満3万人以上、C地域が3万人未満とした。(人口動態統計、1990)

図2 人口規模別食事時の起居様式

凡例：□ イス座 ■ ユカ座 ▨ イス座とユカ座併用

注：東北、関東、関西の地方区分は、慣例的な区分に従った。北海道は少数例だったが、いずれもイス座。

図3 地方別食事時の起居様式

図4 食卓まわりの家族の着座位置は、決まっているか（居場所の占有）

1985年の調査（193件）

よく見る	時々見る	見ない
60.0	21.0	19.0

1995年の調査（150件）

よく見る	時々見る	見ない
60.0	27.3	12.7

凡例：□ よく見る ▨ 時々見る ▤ 見ない

図5 食事時のテレビの視聴状況

表1 食卓周囲の家族人数別着座類型

3人家族 13件 (9.6%)			
4人家族 55件 (40.7%)			
5人家族 40件 (29.6%)			
6人家族 20件 (14.8%)			
7人家族 6件 (4.4%)			
8人家族 1件 (0.7%)			

注1) □ は食卓、○ は家族の座席位置を示す。
 注2) 各図の下には有効件数(135件)の内訳件数とその割合を示す。

参考文献：
 □ 沢田知子、「ユカ坐・イス坐」（住まい学大系066）、住まいの図書館出版局、星雲社、1995。
 □ 佐々木正人、からだ：認識の原点（認知科学選書15）、東京大学出版局、1987。 ほか